

イチジク果実の生育日数と生育期間中の積算温度による収穫期の予測

〔要約〕イチジク果実では、結果節位ごとの結果日や収穫日の年次変動は大きいですが、結果日から収穫日までの日数とその期間中の積算温度は、年次変動や結果節位間の変動が小さく品種によりほぼ一定であるため、結果節位ごとに結果日を把握することで収穫日を予測できる。

担当部署	豊前分場・果樹研究室			連絡先	0930-23-0163
対象作目	果樹	専門項目	栽培	成果分類	生理生態

〔背景・ねらい〕

イチジクは新梢各節に果実が結実し下位節から順次成熟するため、果実は8月～11月の長期間に連日収穫される。収穫期間を通して有利販売を展開するためには、時期別収穫量の予測に基づく計画的な出荷が必要である。しかし、果実の生育は気温などの気象条件に影響されるため、収穫の開始期や最盛期は年次により大きく変動する。そこで、本県の基幹品種である「柘井ドーフィン」および「蓬萊柿」について新梢の結果節位別に果実の結果日から収穫日までの生育日数と生育期間中の積算温度との関係を明らかにし、収穫時期の予測方法を確立する。（要望機関名：飯塚普（H8））

〔成果の内容・特徴〕

1. イチジク果実の結果節位ごとの結果日（果実横径4mmの時期）および収穫日は年次によって大きく変動し、結果日が遅れるほど収穫日が遅れる（表1、図1）。
2. 果実の結果日から収穫日までの日数は年次変動が小さく、結果節位が異なってもほぼ一定であり、「柘井ドーフィン」では80日程度、「蓬萊柿」では85日程度である（表2）。
3. 果実の結果日から収穫日までの積算温度（平均気温の積算値）は年次変動が小さく、結果節位が異なってもほぼ一定であり、「柘井ドーフィン」では2000～2100℃程度、「蓬萊柿」では2100～2200℃程度である（表3）。

〔成果の活用面・留意点〕

1. 露地栽培での収穫の開始期や最盛期の予測による計画的出荷に活用できる。

[具体的データ]

表1 結果節位別の結果日および収穫日の年次変化（平成8～12年）

結果節位	年次	榊井ドーフィン		蓬萊柿	
		結果日	収穫日	結果日	収穫日
第3節	8年	5.28	8.22	6.7	9.2
	9年	5.23	8.15	5.30	8.23
	10年	5.23	8.9	5.24	8.13
	11年	5.29	8.14	5.31	8.25
	12年	6.3	8.14	5.31	8.27
	平均	5.27	8.15	5.31	8.24
第8節	8年	6.17	9.9	6.25	9.19
	9年	6.11	9.2	6.19	9.14
	10年	6.6	8.22	6.10	8.30
	11年	6.11	8.24	6.15	9.8
	12年	6.17	8.28	6.21	9.17
	平均	6.12	8.29	6.18	9.11
第13節	8年	7.5	10.8	7.16	—
	9年	6.28	9.25	7.8	10.5
	10年	6.24	9.6	6.29	9.17
	11年	6.27	9.9	7.1	9.21
	12年	7.1	9.19	7.9	10.6
	平均	6.29	9.19	7.7	9.27



図1 横径4mmの果実

注) 結果日は、果実横径4mmに達した時期。

表2 結果節位別の結果日から収穫日までの生育日数の年次変化（平成8～12年）

品 種	結果節位	生 育 日 数 (日)					平均	変動係数 (%)
		8年	9年	10年	11年	12年		
榊井 ドーフィン	第3節	86	84	78	77	72	79±6	8
	第8節	84	83	77	74	72	78±5	6
	第13節	95	89	74	74	80	82±9	11
蓬萊柿	第3節	87	85	81	86	88	85±3	4
	第8節	86	87	81	85	88	85±3	4
	第13節	—	89	80	82	89	85±5	6

表3 結果節位別の結果日から収穫日までの生育期間中の積算温度の年次変化（平成8～12年）

品 種	結果節位	生 育 期 間 中 の 積 算 温 度 (°C)					平均	変動係数 (%)
		8年	9年	10年	11年	12年		
榊井 ドーフィン	第3節	2130	1995	1897	1814	1990	1965±117	6
	第8節	2141	2106	1988	1804	1917	1991±138	7
	第13節	2333	2242	1992	1843	2128	2108±195	9
蓬萊柿	第3節	2199	2091	1994	2065	2154	2101±79	4
	第8節	2190	2222	2122	2088	2333	2191±96	4
	第13節	—	2177	2132	2069	2267	2161±83	4

[その他]

研究課題名：果実品質の変動要因の解明

予算区分：経常

研究期間：平成12年度（平成8～12年）

研究担当者：栗村光男、野方 仁、矢羽田二郎

発表論文等：平成8～12年豊前分場果樹試験成績書、園芸学会雑誌69巻2号